

音楽科学習指導案

北広島町立本地小学校

教諭 重森 栄理

1 日時 平成22年6月16日(水) 第5校時 13時50分～14時35分

2 学年 第6学年 21名

3 題材名 重なり合う音の美しさを味わおう

4 題材の目標

- ・歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図を持って歌ったり演奏したりする。
- ・楽曲全体にわたる音の重なりが生み出す響きの美しさやその変化を感じ取って聴く。

5 題材について

(1) 題材観

この題材は、小学校学習指導要領音楽の第5学年及び第6学年の内容「A表現」(1)歌唱イ「歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」及び「A表現」(2)器楽イ「曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。」、「B鑑賞」ア「曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。」を受け、合唱や器楽合奏などの表現の活動を通して、音や声が重なり合う美しい響きを感じ取って表現を工夫することや、いろいろな形態の合唱などの鑑賞の活動を通して、合唱の響きの美しさを味わって聴くことをねらいとして設定したものである。

小学校学習指導要領解説音楽編によると、「曲想」とは、「その楽曲に固有な気分や雰囲気、味わい、表情を醸し出しているもの」とある。本題材では、三部合唱やリコーダー四部合奏などの表現の活動や、女性三部合唱や混声四部合唱などの鑑賞の活動を通して、取り扱う楽曲の曲想を感じ取らせる。本題材の学習を通して、音楽を感じ取って歌唱や器楽の表現を工夫する能力や、楽曲を全体にわたって感じ取る能力を高めることが期待できる。

(2) 児童観

本学級の児童は、音楽の表現の学習に対して意欲的な女子と、音楽の表現はあまり得意ではないと感じているが、概ね意欲的な男子とで構成されている。しかし授業の様子から、合唱や合奏の学習において、楽曲に対する味わいの深さを感じているものの、音楽を形づくっている要素やその働きを鋭く感じ取ったりしながら表現を工夫することに課題がある実態が見られる。その要因は、児童自ら考え、試行錯誤し、主体的に歌唱や器楽の表現に取り組む学習において、表現を工夫する手掛かりを、音楽を形づくっている要素やそれらの働きに求めるようにする学習が十分でなかったためであると考えられる。

(3) 指導観

指導に当たっては、〔共通事項〕で示された音楽を形づくっている要素の中から、指導のねらいに即して必要なものとして音の重なりと和声の響きを設定し、〔共通事項〕と表現及び鑑賞の各活動の指導事項との関連を図った題材構成を工夫する。表現の活動では、音の重なりや和声の響きを、人の声やリコーダーの音色から感じ取らせる。具体的に歌唱では、歌詞全体の内容を把握させながら、《ピリブ》の独唱や、《ふるさと》の三部合唱を取り入れる。また器楽では、器楽合奏でリコーダー四部合奏を取り入れる。これらの学習活動を行うことで、声や楽器のいろいろな演奏形態による響きの違いや音の重なりや厚みを感じ取らせるようにする。また、鑑賞の活動では、いろいろな合唱の形態による響きの違いを感じ取らせるようにする。具体的には、山田耕作や滝廉太郎の代表的な歌曲を取

り上げ、声の種類を様々に組み合わせることによって、いろいろな演奏形態ができることに気付かせる。そして、同じ曲を演奏してもそれぞれの味わいが違うことを感じ取りながら、合唱の響きの美しさを味わって聴く活動を進める。

6 教材について

(1) 歌唱曲

《ふるさと》 作詞／高野辰之 作曲／岡野貞一 編曲／浦田健次郎

文語体の歌詞の意味を理解し、児童のふるさと「本地」に思いを寄せながら歌うことのできる楽曲である。9小節目からの掛け合いは、児童が歌いながら面白さを感じ取ることが期待されるところである。また、後半の部分3部合唱の和声の響きの美しさを、特に味わわせたい。

《ビリーブ》 作詞・作曲／杉本竜一 編曲／富澤 裕

この編曲は、3度の以外の音の重なりで書かれている。また、始めの8小節を独唱し、後半合唱に演奏形態を工夫することで、音の重なり、和声の響きを手掛かりに楽曲に対する理解を深めさせたい。

(2) 器楽曲

《ゆうやけこやけ》 作詞／中村雨紅 作曲／草川 信 編曲／國久 昇

《茶摘》 文部省唱歌 編曲／國久 昇

《おどるポンポコリン》 作曲／織田哲郎 編曲／國久 昇

いずれもリコーダー四部合奏の楽曲である。ソプラノリコーダー・アルトリコーダー・テナーリコーダー・バスリコーダーという4種類の音色が重なることによって生まれる、厚みのある響きを感じ取らせたい。独奏や合奏による音の重なりや和声の響きを感じ取らせることで、楽器の組み合わせを工夫し、児童が様々な思いや意図をもって演奏できるようにさせたい。

(3) 鑑賞曲

《赤とんぼ》 作詞／三木露風 作曲／山田耕筰

《箱根八里》 作詞／鳥居 枕 作曲／滝 廉太郎

前者は、女声三部合唱と混声四部合唱、後者は男声四部合唱による演奏である。子どもの声の演奏と比較して、大人の声の合唱の特徴を感じ取り、いろいろな演奏形態により、和声の響き方が変わることを聴き取らせたい。

《茶摘》 文部省唱歌

《ゆうやけこやけ》 作詞／中村雨紅 作曲／草川 信 編曲／加藤雄紀

この2曲は、児童がリコーダーで演奏する楽曲である。前者は、女声合唱と混声合唱、後者はオカリナ独奏による演奏である。合唱の響きの違いや、独奏の凛とした響きを感じ取らせ、児童の演奏の工夫の参考にさせたい。

7 題材の評価規準¹

観点	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
評価規準	①歌詞の内容、楽曲の雰囲気や味わいを生かした音の重なり、和声の響きの強弱の表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ②楽曲の雰囲気や味わいを生かした音の重なり、和声の響きの強弱の表現を工夫し、思いや意図をもってリコーダーを演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ③いろいろな演奏形態による合唱や合奏の楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に、主体的に取り組もうとしている。	①音の重なり、和声の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取り、歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。 ②音の重なり、和声の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取り、曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。	①歌詞の内容、楽曲の雰囲気や味わいを生かして歌っている。 ②楽曲の雰囲気や味わいを生かして演奏している。	①いろいろな演奏形態による合唱や合奏の、楽曲の「はじめ」「なか」「おわり」でどのように曲想が変化していくかを感じ取って聴いている。

8 指導計画（全8時間）

時	○学習内容・学習活動 <u>〔共通事項〕</u>	◎教師の働きかけ ★評価（方法）
〈第一次のねらい〉歌詞の内容、重なり合う声の響きの美しさを感じ取って歌う。		
1	○ 歌詞の内容、重なり合う音の響きを感じ取って《ビリーブ》の合唱をする。 ・ 旋律の音の高さやリズムを確認し、パートごとに歌唱する。 ・ 楽曲全体を通して、歌詞の内容と曲の雰囲気に気を付けながら合唱をする。	◎ビリーブの範唱CDの1番を聴かせ、音の重なり方で気付いたことを発表させる。 ★歌詞の内容、楽曲の雰囲気や味わいを生かした音の重なり、和声の響きの強弱の表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。ア①
2	○ 歌詞の内容、重なり合う音の響きを感じ取って《ふるさと》の合唱をする。 ・ <u>音の重なり</u>、<u>和声の響き</u>を感じ取り、パートごとに歌唱する。 ・ 歌詞の意味と楽曲の雰囲気とのかかわりについて話し合い、それを生かして合唱する。	◎3部合唱の部分の音の重なりを一つずつ確認しながら歌わせる。 ★音の重なり、和声の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取り、歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。イ① ★歌詞の内容、楽曲の雰囲気や味わいを生かして歌っている。ウ①

¹ 本学習指導案においては、文部科学省が平成22年5月11日に示した「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」を参考に、評価の観点を設定している。

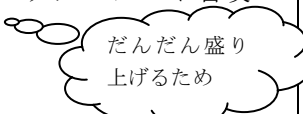
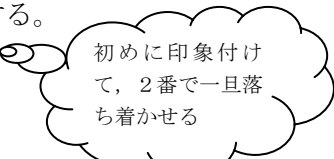
〈第二次のねらい〉 いろいろな演奏形態による声やリコーダーの重なり合いが生み出す美しさやその変化を感じ取り、リコーダー四部合奏の表現を工夫する。		
3	○ 重なり合う音の響きを感じ取って《ちゃつみ》《ゆうやけこやけ》《おどるポンポコリン》のリコーダー四部合奏をする。 ・ 旋律の音の高さやリズムを確認し、パートごとに演奏する。 ・ 速度やリズムを確認し、全体で合奏する。	◎ 《ちゃつみ》《ゆうやけこやけ》は打楽器で速度を保てるよう工夫する。 ◎ 《おどるポンポコリン》はリズムにのれるようにピアノ伴奏を工夫する。 ★ 楽曲の雰囲気や味わいを生かした音の重なり、和声の響きの強弱の表現を工夫し、思いや意図をもってリコーダーを演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。ア②
4	○ グループに分かれて、《ちゃつみ》《ゆうやけこやけ》の表現を工夫して演奏する。 ・ 2グループに分かれて、《ちゃつみ》《ゆうやけこやけ》を合奏する。 ・ <u>音の重なり</u>、<u>和声の響き</u>を感じ取り、パートごとに合奏する。	◎ 拡大楽譜に書き込ませながら強弱を工夫させる。その際、思いや意図も書かせる。 ★ 音の重なり、和声の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取り、曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。イ②
5	○ オカリナ独奏による楽曲の曲想とその変化を感じ取って聴く。 ・ 音色の響きの美しさや曲想の変化に気を付けて、《ゆうやけこやけ》のオカリナ独奏の楽曲全体を聴く。 ・ オカリナ独奏を参考に、グループに分かれてリコーダー四部合奏の工夫をする ・ 一番を全て独奏にする場合や、部分的に独奏にする場合の2通りを工夫させて、2番まで合奏する。	◎ オカリナ独奏による曲想の変化に気を付け、楽曲全体を聴かせる。 ★ 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。ア③
6	○ 女声合唱・男声合唱・混声合唱の特徴を感じ取って楽曲全体を聴く。 ・ 山田耕作・滝廉太郎について知る。 ・ 《赤とんぼ》《箱根八里》の演奏を聴き、女声合唱・男声合唱・混声合唱による音の重なり、和声の響きを聴き取り、曲の雰囲気がどのように変化しているかを感じ取る。 ・ いろいろな合唱形態の演奏とリコーダー合奏との共通点などを話し合う。	◎ 合唱形態の名称を押さえながら特徴をまとめる。 ◎ 合唱の6つのパートと児童のリコーダーの4つのパートの対応をさせる。 ★ いろいろな演奏形態による合唱や合奏の、楽曲の「はじめ」「なか」「おわり」でどのように曲想が変化していくかを感じ取って聴いている。エ①
7 本 時	○ パートの音の重なり、和声の響きを感じ取り、グループに分かれてリコーダー四部合奏の表現を工夫する。 ・ 前時を思い出し、パートの<u>音の重なり</u>、<u>和声の響き</u>を工夫して、3番まで演奏する。 ・ 聴き合いをし、<u>音の重なり</u>、<u>和声の響き</u>の工夫について、よさや美しさについて話し合う。	◎ パートの重なり方をいろいろなパターンで試行錯誤させ、音の重なり、和声の響きの違いを味わわせる。 ★ 音の重なり、和声の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取り、曲想を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。イ②
8	○ リコーダー四部合奏の曲想を生かした表現を工夫し、全体表現をつなげて思いや意図をもって演奏する。 ・ リコーダー四部合奏を完成させ、発表をする。	◎ これまでの学習を総合的に生かして、発表させる。 ★ 楽曲の雰囲気や味わいを生かして演奏している。ウ②

9 本時について（7/8時間目）

（1） 本時のねらい

○パートの音の重なり，和声の響きを感じ取り，グループに分かれてリコーダー四部合奏の表現を工夫する。

（2） 本時の展開

	学習活動（○発問・指示●児童の反応） 共通事項	◎指導上の留意点 ★評価（方法）
ユニットA	1 《ふるさと》の1番，《ビリーブ》の1番を歌う。 ○気をつけることは何ですか。●<u>強弱</u>●<u>音の響き</u> 2 リズムにのって《おどるポンポコリン》1番のリコーダー演奏をする。 3 8ビートの打楽器演奏の練習をする。	◎ あまり時間をかけないように，活動を重視する。
ユニットB	4 本時のねらいを知る。 パートの重ね方を工夫して，変化のある演奏をつくろう。 5 グループで<u>音の重ね方</u>を試行錯誤する。 ● 1番ソプラノ独奏→2番ソプラノ+アルト合奏→3番は四部合奏 ● 1番ソプラノ斉奏→2番バス以外→3番は四部合奏 ● 1番に四部合奏→2番ソプラノ独奏→3番は4小節ずつパートが増加する。   6 グループごとに，発表し，話し合う。 ○相手グループの工夫点を見つけましょう。 ○この工夫から，どんな面白い<u>変化</u>が感じられましたか。 ○つくったグループの意図をききましょう。 7 学習のまとめと次時の予告をきく。	◎ カードを使って，例示をする。 ◎なぜ，その重ね方にしたのか，意図を吹き出しにかかせる。 ★音の重なり，和声の響きを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取り，曲想を生かした表現を工夫し，どのように演奏するかについて自分の考えや願い，意図をもっている。イ②（行動観察） ◎発表はクイズ形式にし，互いの工夫点を当てることで，集中して聴かせるようにする。